



バージョン14

デプロイメントガイド

年間ライセンス版：Windows

「真の発見の旅とは、新しい風景を探すことではなく、新たな視点を持つことである。」
マルセル・プルースト

JMP, A Business Unit of SAS
SAS Campus Drive
Cary, NC 27513

3/27/18

このマニュアルを引用する場合は、次の正式表記を使用してください: SAS Institute Inc. 2018. JMP® 14 年間ライセンス版Windowsバージョンのデプロイメントガイド. Cary, NC: SAS Institute Inc.

JMP® 14 年間ライセンス版 Windows バージョンのデプロイメントガイド

Copyright © 2018, SAS Institute Inc., Cary, NC, USA

All rights reserved. Produced in the United States of America.

SAS Institute Inc., SAS Campus Drive, Cary, North Carolina 27513-2414.

目次

年間ライセンス版Windowsバージョンのデプロイメントガイド

1 インストール

インストール用ファイルの提供	5
ライセンス情報	5
JMPのインストール準備	6
ライセンス管理	6
JMPのインストール	7
ソフトウェアデポにカスタムファイルを追加する	7
インストールオプション	8
サイレントインストール	9
JMP 初回起動時の操作	9

2 更新とアップグレード

JMP のライセンスの更新	11
---------------------	----

3 FAQ

付録A

.NET Framework	16
PERファイルの生成ツール	16
アイコンの更新	17
JMP アップデート関連ファイル	17
Java	17
Visual C++ 再頒布可能パッケージ	18

索引

第1章

インストール 年間ライセンス版Windowsバージョン

本ガイドは、JMPおよびJMP Proのバージョン14用です。本ガイドではJMPとJMP Proの両方に対して「JMP」という名称を用いています。古いバージョンを使用している方は、該当するバージョンのデプロイメントガイドを参照してください。

このガイドでは、Windows用の年間ライセンス版JMPのインストール、デプロイメント、ライセンス情報の更新について解説しています。年間ライセンス版のJMPは、契約期間終了時に使用期限が切れるライセンス情報によって保護されているバージョンです。このバージョンは、適切かつ有効なライセンスファイルがなければ動作しません。このファイルにより、ライセンス期限日に契約更新の猶予期間を加えた期限まで JMPが動作可能となります。

JMPの新規契約時に必要な作業の流れは、以下のとおりです。

1. JMPインストールファイルの入手。詳細については、「[インストール用ファイルの提供](#)」(5ページ) を参照してください。
2. ライセンスファイルの確認（オプション）。詳細については、「[ライセンス情報](#)」(5ページ) を参照してください。
3. インストールファイルの準備。詳細については、「[JMPのインストール準備](#)」(6ページ) を参照してください。
4. 必要に応じてライセンスファイルの場所をユーザに通知。詳細については、「[ライセンス管理](#)」(6ページ) を参照してください。
5. インストールファイルの場所をユーザに通知。詳細については、「[JMPのインストール](#)」(7ページ) を参照してください。
6. 各ユーザによる、JMPのインストールと起動。詳細については、「[JMP初回起動時の操作](#)」(9ページ) を参照してください。

管理者がどのようにライセンスを準備したかにより、ユーザが、JMPの初回実行時にSASインストールデータ (SID) ファイルまたは JMP.PER ファイルの場所を指定しなければならない場合があります。

JMPを配布する前に、<http://www.jmp.com/administrator/> にある追加情報もご確認ください。

インストール用ファイルの提供

インストール用ファイルは、SASから次のいずれかの方法で提供されます。

- ESD (Electronic Software Delivery: ダウンロードによるソフトウェアの配布)
- DVDメディア

これらに含まれる一連のインストール用ファイルをソフトウェアデポと呼んでいます。

どちらがよいか、必要に応じて、JMPのアカウントマネージャにご相談ください。どちらの方法でファイルを受け取られても、構成は同じです。ファイルをダウンロードする場合の方法に関しては、SASから送られるSoftware Order Email (ダウンロードに必要な情報のメール) を参照してください。ESDのダウンロードは2回までしかできないようになっています。

JMPとJMP Proの年間ライセンス版のインストーラには、32ビットモードと64ビットモードでの実行に必要なファイルが含まれています。SASからのメールに「64ビット版」と書かれている場合でも、インストーラには32ビットと64ビットの両方のファイルが含まれています。

32ビットマシンでは、32ビット用のファイルのみがインストールされます。64ビットマシンの場合は、32ビット用と64ビット用のどちらのファイルをインストールするかを指定できます。

注: データベースODBCのドライバ (Microsoft Access、SQL Server、Oracleなど) を使用する場合、JMPが32ビット版の場合はODBCドライバも32ビット版、JMPが64ビット版の場合はODBCドライバも64ビット版でなければなりません。

ライセンス情報

JMPを実行するには、有効なライセンスファイルが必要です。ライセンスファイルはJMPのインストール時に作成される**JMP.PER**という名前のファイルです。**JMP.PER**ファイルを作成するのに必要なデータは、SASインストールデータ (SID) ファイルと呼ばれるテキストファイル内にあります。SIDファイルは、ソフトウェアデポ内の「**sid_files**」フォルダにあります。

JMPでは、バージョンによってライセンスファイルの中身が異なるため、メジャー・バージョン (バージョン番号「#.0」) ごとにライセンスファイルが必要です。ライセンスファイルは、メジャー・バージョンが同じであれば、後に続くメンテナンスリリース (バージョン番号「#.#」) のすべてに有効です。

JMP.PERは、JMPのインストール中またはライセンスの適用時に作成された場所に保管しておくことをお勧めします。ただし JMPでは、すべてのユーザがアクセスできる1つの場所に **JMP.PER**を保管することも可能です。詳細については、[「ライセンス管理」](#) (6ページ) を参照してください。

JMPは、起動のたびに**JMP.PER**を読み込み、**JMP.PER**のすべての行を確認します。また、オペレーティングシステムも確認します。Windows用の**JMP.PER**はMacintoshで使用できず、Macintosh用の**JMP.PER**はWindowsで使用できないためです。

ライセンス期限日付

新規ご契約の場合、媒体に含まれているライセンスは、約90日後に期限が切れる場合があります。その場合、後日新しいSIDファイルがSASから電子メールで送られます。SASから新しいライセンス（SIDファイル）を受け取ったら、元のインストール用ファイルの中にあるSIDファイルを、SASから受け取ったファイルに置き換えてください。その後のすべてのインストールで確実に新しいライセンスが使用されるようになります。すでにインストールされたJMPについてもライセンスを更新する必要があります。詳細については、「[JMPのライセンスの更新](#)」（11ページ）を参照してください。

ライセンスの猶予期間は、90 日です。そのうち45日を過ぎると、JMPを起動するたびに、ライセンスの更新を促すメッセージが表示されるようになります。猶予期間が過ぎると、新しいライセンスを取得しない限り JMPは起動できません。

JMPのインストール準備

JMPのインストール用ファイルを、次のいずれかの方法で準備します。

- ソフトウェアデポまたはオリジナルの DVD からすべてのファイルを共有ネットワーク領域にコピーする。すべてのユーザがその1つの場所からJMPをインストールできるようになります。
- ソフトウェアデポまたはオリジナルのDVDからすべてのインストール用ファイルを DVDにコピーし、そのディスクを各ユーザに配布する。
- オリジナルのDVDを各ユーザに順に廻す。

ライセンス管理

JMPインストーラは、ソフトウェアデポ内のsid_filesフォルダにあるSIDファイルを元にJMP.PERファイルを作成します。このJMP.PERファイルは、JMPインストールフォルダに保存されます。

インストール中にライセンス情報が見つからなかった場合、ユーザはJMPを初めて起動するときにライセンスファイルの場所を指定するよう促されます。ここで、JMP.PERファイルまたはSIDファイルのいずれかを指定する必要があります。JMP.PERファイルを指定した場合は、ファイルの現在の場所が保存され、JMPの起動時に毎回そのファイルが確認されます。SIDファイルを指定すると、JMP.PERファイルが作成され、保管場所の指定を促すメッセージが表示されます。

なお、1つのJMP.PERファイルを安全な共有ネットワーク上の場所に置き、すべてのユーザがそのファイルを使うようにすることもできます。その場合は、各ユーザが、JMPの初回起動時にそのJMP.PERファイルを選択します。

JMP のインストール

注: JMPをインストールする各ユーザは、そのコンピュータ上で管理者権限を持っていなければなりません。

JMP管理者は、インストール用ファイルの場所をユーザに通知する必要があります。ライセンスの配置の方法により、必要な場合はライセンスファイルの場所も合わせてユーザに通知します。ソフトウェアデポには、JMPのインストールに必要なインストーラファイルが含まれています。JMPとJMP Proは、別々のソフトウェアデポに保管されます。ソフトウェアデポには、オペレーティングシステムとJMPのバージョンに基づいたインストーラ用のフォルダ構造があります。インストールを開始するために実行するファイルは以下のとおりです。

JMP	<SAS Software Depot>\JMP\JMP\14_0\Windows\setup.exe
JMP Pro	<SAS Software Depot>\JMP\JMP_Pro\14_0\Windows\setup.exe

setup.exeファイルを右クリックし、【管理者として実行】を選択してJMPをインストールします。

ソフトウェアデポにカスタムファイルを追加する

JMP管理者は、ソフトウェアデポに独自のファイル（カスタムファイル）を追加することができます。JMPインストーラは、インストール中にこれらのファイルをコンピュータにコピーします。ファイルがインストールされたら、JMPはこれらのカスタムファイルを処理します。次の種類のカスタムファイルを追加することができます。

- スクリプト (.jsl)
- 環境設定 (JMP.PFSファイル)
- アドイン (*.*)
- サンプル (*.*)

カスタムファイルはcustomという名前のフォルダに保存してください。

- custom フォルダは次の場所に作成します。
 - JMP: <SAS Software Depot>/JMP/JMP/14_0/Windows/custom
 - JMP Pro: <SAS Software Depot>/JMP/JMP_Pro/14_0/Windows/custom
- custom フォルダ内に、scripts、pfs、samples、というサブフォルダを作成します。ファイルはこれらのフォルダからコピーされます。

注: addins フォルダや samples フォルダにサブフォルダがある場合は、それもコピーされます。

ファイルは、C:/ProgramData/SAS/JMP/ または C:/ProgramData/SAS/JMPPRO/にコピーされます。

注: スクリプト、サンプル、および環境設定ファイルは、バージョン番号を名前とするフォルダに保存されます。アドインはaddinsという名前のフォルダに保存されます。

インストール用ファイルがDVDでのみ提供され、ソフトウェアデポをダウンロードしていない場合は、DVD の内容をすべて編集可能な場所にコピーする必要があります。そうすれば、その場所が <SAS Software Depot>として扱われます。そこにファイルを追加すれば、それらのファイルがインストール時にコピーされます。

インストールオプション

インストーラを起動すると、インストールオプションの画面が表示されます。

- JMP 32-bit アプリケーション
- JMP 64-bit アプリケーション

64ビット版のオペレーティングシステム上にインストールする場合、JMPの32ビット版と64ビット版のどちらをインストールするかを選択できます。

言語サポートファイル

インストーラが簡体中国語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、日本語、韓国語、またはスペイン語で起動している場合は、その言語が選択された状態になっています。ここで選択された言語のヘルプ、ドキュメンテーション、使い方ヒントがインストールされます。

Excelアドイン

JMPインストーラによってMicrosoft Excel 2010、2013、2016が検出された場合、Excelアドインオプションが表示されます。このアドインにより、Microsoft ExcelとJMPと一緒に使用する際の新しい機能が提供されます。

SASインテグレーション

- Java Runtime Environment
- インテグレーションのコアファイル

デフォルトでは、これらのオプションは選択されていません。

インストールされたJMPがサーバー上のSASに接続して処理を行う場合、【SASインテグレーション】を選択します。

【Java Runtime Environment】を選択すると、JMPはJavaバージョン7またはそれ以降のバージョンがインストールされていることを確認します。Javaバージョン7またはそれ以降のバージョンが見つかった場合、Javaは更新されません。Javaバージョン7またはそれ以降のバージョンが見つからない場合、Javaバージョン8 Update 131がインストールされます。32ビット版のJMPが選択されている場合、32ビットのJavaがインストールされます。64ビット版のJMPが選択されている場合、64ビットのJavaがインストールされます。

サイレントインストール

サイレントインストールとは、メッセージやダイアログを表示しないインストールプロセスを指します。通常のインストールで表示されるプロンプトへの答えや選択内容をスクリプトに保存し、それを使ってサイレントインストールを行います。JMPで使用しているInstallShield®ソフトウェアは、サイレントインストールを行うためのスクリプトの使用をサポートしています。

注: サイレントインストールを行う前に、Microsoft .NET 4.6.1がインストールされていること、その他のシステム要件が満たされていることを確認してください。

JMPのサイレントインストールを実行するには、次の手順に従います。

1. 応答ファイル（拡張子.iss）を作成する。

```
setup.exe -r -f1{応答ファイル名}
```

「-f1」とファイル名の間にスペースを入れないこと、Lの小文字ではなく数字の1であることに注意してください。たとえば、silent.issという名前のファイルをC:\に作成する場合、コマンドは次のようにになります：

```
setup.exe -r -f1c:\silent.iss
```

2. 作成された応答ファイルを使ってJMPのサイレントインストールを行う。

```
setup.exe -s -f1{応答ファイル名}
```

「-f1」とファイル名の間にスペースを入れないように注意してください。たとえば、C:\にあるsilent.issという名前のファイルを使用する場合、コマンドは次のようにになります：

```
setup.exe -s -f1c:\silent.iss
```

JMP 初回起動時の操作

ライセンスファイルがインストール中に適用された場合、その他に必要な処理はありません。

ライセンスファイルがインストール中に適用されなかった場合、ユーザはライセンスファイルを選択するよう促されます。

ユーザがJMP.PERファイルを指定した場合、JMP.PERファイルの場所の情報が保存されます。そのため、もし後になってJMP.PERファイルが移動または削除された場合、ユーザは再度ライセンスファイルを選択するよう促されます。また、JMP.PERファイルがネットワークドライブに保存されている場合は、そのドライブが利用可能な状態でないとJMPを実行することができません。

ユーザがSIDファイルを指定した場合、JMPはそのファイルを使ってJMP.PERファイルを作成し、ユーザにJMP.PERファイルの保存場所の指定を促します。

注: SIDファイルやJMP.PERファイルには、テキストエディタで編集できそうなテキストが含まれていますが、絶対に編集しないでください。SIDファイルを変更すると、どのような方法で変更したかにかかわらず、ファイルの整合性が損なわれます。いったん整合性が損なわれると、ライセンスファイルが作成されず、JMPを使用できなくなります。同様に、JMP.PERファイルを変更すると、ファイルが無効になり、元のSIDファイルを使用してJMP.PERファイルを作成し直さなければならなくなります。

第 2 章

更新とアップグレード JMP ライセンス

この章では、JMPライセンスの更新とアップグレードの方法について説明します。ライセンスの更新が必要になると、SASから新しいライセンスデータをテキストファイルとして添付したメールが届きます。このテキストファイルを保存し、ライセンスの更新に使用します。

JMP のライセンスの更新

ライセンスの有効期限が切れるときには、SASとのライセンス契約を更新する必要があります。その後SASから新しいSIDファイルが電子メールで送られてきます。

SASから新しいライセンス（SIDファイル）を受け取ったら、元のインストール用ファイルの中にあるSIDファイルを、SASから受け取ったファイルに置き換えてください。その後のすべてのインストールで確実に新しいライセンスが使用されるようになります。

注: SIDファイルやJMP.PERファイルには、テキストエディタで編集できそうなテキストが含まれていますが、絶対に編集しないでください。SIDファイルを変更すると、どのような方法で変更したかにかかわらず、ファイルの整合性が損なわれます。いったん整合性が損なわれると、ライセンスファイルが作成されず、JMPを使用できなくなります。同様に、JMP.PERファイルを変更すると、ファイルが無効になり、元のSIDファイルを使用してJMP.PERファイルを作成し直さなければならなくなります。

また、インストールされているすべてのJMPでライセンスを更新する必要があります。次の3通りの方法があります。

- SIDファイルをすべてのユーザに配布する。
- 新しいSIDからJMP.PERファイルを作成し、それをすべてのユーザに配布する。
- 共有ネットワーク上にあるJMP.PERファイルのコピーを置換する。

JMP ライセンスの更新

1. JMPを起動します。

注: Windows のセキュリティ強化により、管理者モードでないとライセンスを更新できない場合があります。その場合は、デスクトップにある JMP のアイコンを右クリックし、[管理者として実行] を選択してください。

2. ライセンスの更新を促すメッセージが表示されましたら、[ライセンスを開く] をクリックしてください。

ライセンスの更新を促すメッセージが表示されない場合は、JMPのスクリプトウィンドウを開き（[ファイル] > [新規作成] > [スクリプト]）、次のスクリプトを入力した後に実行します（[編集] > [スクリプトの実行]）。

`Renew License();`

3. 下記の手順で、SIDファイルまたはJMP.PERファイルを使用して更新を行います。

SID ファイルを使用した JMP の更新

1. 表示されたウィンドウで、SASから電子メールで送られてきたSIDファイルの保存場所へ移動し、ファイルを選択します。
2. [開く] をクリックします。
3. (オプション) 管理者の名前と部門を入力します。
4. [OK] をクリックします。

JMP.PER ファイルを使用した JMP の更新

1. 表示されたウィンドウで、新しいJMP.PERファイルがある場所まで移動します。
2. [開く] をクリックします。

第3章

FAQ

JMPのインストール

この章では、JMPに関するFAQを紹介します。

JMP 14のデスクトップアイコンは自動的に作成されますか。

デスクトップアイコンはデフォルトでは作成されません。デスクトップアイコンを作成するには、インストールウィンドウの最後の画面で [デスクトップにショートカットを作成] を選択します。

Windowsのセキュリティにより、「C:\Program Files」フォルダ内のJMPファイルを更新することができません。どうすればよいでしょうか。

これは、Windows OSのセキュリティが強化されたために起こる現象です。「Program Files」フォルダ内のファイルを変更するには、管理者モードでJMPを実行する必要があります。その場合は、デスクトップにあるJMPのアイコンを右クリックし、[管理者として実行] を選択してください。

JMP.PERファイルが保存されているネットワークの外でノートPCを使って JMPを実行したい場合は、どうすればよいですか。

全員が使えるように单一のJMP.PERファイルがネットワーク上のフォルダに保存されている場合に、ネットワークに接続していないノートPC上でJMPを実行したいときは、一時ライセンスを用いて一定の期間だけJMPを実行できます。ただしその前に、ネットワークに接続した状態でノートPCのJMPを実行して、そのJMPが有効なJMP.PERファイルを参照する必要があります。

1. ノートPCをネットワークに接続します。
2. JMPを起動し、ノートPCのJMPがネットワーク上の最新のライセンスファイルにアクセスしていることを確認します。
3. JMPを終了します。

その後、ネットワークに接続しないでJMPを起動すると、90日間有効な一時ライセンスを使ってJMPが実行されます。90日が経過したら、再びネットワークに接続する必要があります。

注: ネットワークから切断する前に、有効なライセンスファイルを使ってJMPを実行する必要があります。ネットワークに接続しない状態でJMPを使用することはできません。

JMPソフトウェアのメンテナンスアップグレードはどこで入手できますか。

メンテナンスアップグレードは、JMPのWebサイト (http://wwwjmp.com/ja_jp/support/jmp-software-updates.html) で提供されています。

コンピュータに異なるバージョンのJMPを2つインストールすることはできますか。

できます。JMP 14は、以前のバージョンがインストールされているコンピュータにそのままインストールできます。JMP 14をインストールしても、以前のバージョンは削除されず、両方のバージョンが実行可能になります。

JMPのバージョンを2つ使用している場合、両方のバージョンのExcelアドインをインストールできますか。

できません。JMPのExcelアドインは1台のコンピュータに1セットしかインストールできないため、JMP 14をインストールすると、以前のバージョンのExcelアドインファイルが削除されます。JMPファイル (.JMP、.JSLなど) は、最後にインストールされたバージョンのJMPに関連付けられます。この設定を変更するには、アクティブにしたいJMPバージョンで [ファイル] > [環境設定] > [Windowsのみ] > [関連付けのリセット] を選択してください。

JMPのトライアル版に年間ライセンス版を上書きインストールすることはできますか。

できません。JMPの年間ライセンス版をインストールする前に、トライアル版をアンインストールしてください。そうしないと、システムファイルやライセンスファイルの一部が正しい場所にインストールされない可能性があります。

JMPのライセンスの期限が切れた場合や、もうすぐ切れる場合、誰に連絡すればよいですか。

社内のJMP管理者またはサポート担当者を通し、SAS社の営業担当まで新しいライセンスファイルの提供をご依頼ください。

JMPの品質に関するステートメントはどこで見ることができますか。

JMPでは、JMPによって生成される結果が正確で信頼性が高いということを可能な範囲で確認できるよう、さまざまな手段を用意しています。顧客による検証や稼動性能適格性確認 (OQ) の作業を支援するため、JMPは、標準技術局のStatistical Reference Data (StRD)に基づいた一連のテストをダウンロードファイルとして提供しています。また、JMPが正しくインストールおよび維持されていることを検証するツールもあります。このツールは、インストールされたファイルすべての整合性を検証し、詳細な結果をレポートします。これらの情報は、JMPのWebサイト (<http://www.jmp.com/software/qualitystatement.shtml>) から入手できます。

JMPで問題が生じた場合、どのように報告すればよいですか。

JMPジャパンのテクニカルサポートは、次の4つの方法で提供しています。

- 通常のご質問は、電子メールで承っています。jpnjmpsupport@jmp.com まで電子メールをお送りください。
- FAXでのサポート：問題を03-6434-3781 までFAXでお送りください。FAXは曜日に関係なく、1日24時間いつでもご送付いただけます。新たに生じた問題や、報告済みの問題に関する追加情報などを、ぜひFAXでお知らせください。

- JMP がインストールできない、または起動できないなどの緊急の場合に限り、電話でのお問い合わせも承っています。テクニカルサポート: 03-6434-3782 (平日 9:00 ~ 12:00 / 13:00 ~ 17:00)。オンラインの問題報告フォームを使ってテクニカルサポートに連絡することもできます。
- インターネットでのサポート: JMPテクニカルサポートのWebサイト (<http://wwwjmp.com/japan/support/index.shtml>) では、さまざまなツールやヒント、問題を解決するための情報を提供しています。曜日に関係なく1日24時間ご利用いただけます。.

海外でJMPをご利用いただいている場合は、お近くのSASオフィスまでご連絡ください。

テクニカルサポートに連絡する際は、次の情報をお手元にご用意ください。

- JMPのサイト番号
- 使用しているJMPのバージョン
- グラフィックに問題がある場合は、ビデオカードのメーカーと型番、ビデオドライバのバージョンが必要になります。

JMPのサイト番号はどこを見ればわかりますか。

サイト番号を表示するには、【ヘルプ】>【バージョン情報】をクリックします。

Windows上のJMPは、どのようにPERファイルを見つけますか。

ソフトウェアデポから直接インストールした場合、PERファイルはC:\Program Files\SAS\JMP\14\JMP.PERにあります。JMP ProのPERファイルは、C:\Program Files\SAS\JMPPRO\14\JMP.PERにあります。

ライセンスファイルの場所を指定するよう求められ、JMP.PERファイルを指定した場合は、指定した場所がWindowsレジストリに保存されます。JMPの起動時、PERファイルの検索は、次のような順序で行われます。

- Windowsレジストリ
- ユーザフォルダ (%APPDATA%\SAS\JMP\14\JMP.PERまたは%APPDATA%\SAS\JMPPRO\14\JMP.PER)
- インストールフォルダ

JMPが参照しているPERファイルの場所は、次の1行のスクリプトでログに出力することができます。

```
Show License Path();
```

付録A

この付録には、「Extra」フォルダに保存されているファイルについての補足的な情報が記載されています。

.NET Framework

NDP461-KB3102436-x86-x64-AIOOS-ENU.exe

このファイルは、Microsoft社が提供しているものです。JMP 14を実行するには.NET 4.6.1が必要です。JMPに含まれている.NET 4.6.1インストーラは、Client Profileであり、.NET 4.6.1のフルインストーラではありません。

このファイルは、32ビット版または64ビット版のWindowsオペレーティングシステムで必要なファイルをインストールします。JMPのインストール中にWindowsレジストリが検証され、.NET 4.6.1がインストール済みかどうかが確認されます。.NET 4.6.1がすでにインストールされている場合は、JMPのインストールが続行されます。まだインストールされていない場合は、.NET 4.6.1をインストールするかどうかを確認するダイアログが表示されます。[はい]を選択すると、インストール処理が続行され、.NET 4.6.1が自動的にインストールされます。[いいえ]を選択すると、JMPのインストールが中止されます。

.NET 4.6.1のインストールは10~20分ほどかかることがあります。他のアプリケーションをあらかじめ閉じておくことを強くお勧めします。.NET 4.6.1をインストールした場合は、JMPのインストール後にコンピュータを再起動する必要があります。

.NET 4.6.1ファイルは、JMPとJMP Proのソフトウェアデポにありますが、このファイルが確実に不要である場合は、インストール前にソフトウェアデポから削除しても問題はありません。

注: .NET 4.6.1が正しくインストールされていないと、JMPは動作しません。

PERファイルの生成ツール

JMPExtractPER32.exe

JMPExtractPER64.exe

これらの実行ファイルは、デポの「`sid_files`」フォルダにあるテキスト形式のライセンスファイルを JMP.PER ファイルに変換します。変換してできた JMP.PER ファイルは、ユーザが指定したインストールフォルダに保存されます。

- `JMPExtractPER32.exe` は、32 ビット版のオペレーティングシステムを搭載したコンピュータ向けに設計されています。
- `JMPExtractPER64.exe` は、64 ビット版のオペレーティングシステムを搭載したコンピュータ向けに設計されています。

これらのファイルは、JMP と JMP Pro のソフトウェアデポにあります。インストール前にこれらのファイルを削除すると、インストール時に PER ファイルが作成されないため、JMP の初回起動時にライセンスファイルの場所を尋ねるウィンドウが表示されます。

アイコンの更新

JMPIconRefresh.exe

これは、デスクトップの更新を要求するコールをオペレーティングシステムに送るもので、インストールの最後に実行されます。デスクトップアイコンが表示されない、または JMP のものでないアイコンが表示されるという報告があったことを受け、このプログラムが作成されました。ユーザは、F5 キーとこの更新プログラムのいずれかを使ってデスクトップを更新できます。

このファイルは、JMP と JMP Pro のソフトウェアデポにあります。このファイルが不要な場合は、インストールの前にソフトウェアデポから削除しても問題はありません。

JMP アップデート関連ファイル

JMPInstallOrigin.txt

このファイルがインストールされると、ユーザが JMP 環境設定ページから JMP ソフトウェアのアップデートの有無を確認できるようになります。管理者が、ユーザによるアップデートの確認を望まない場合は、インストールの前にソフトウェアデポからこのファイルを削除する必要があります。

Java

jre-8u131-windows-i586.exe

jre-8u131-windows-x64.exe

これらのファイルは、Oracle®/Sun®から提供されたもので、Javaバージョン8 Update 131のファイルをインストールします。まずOSにインストールされているJavaの最新バージョンがチェックされます。インストールしている最新バージョンが6以下である場合は、バージョン8がインストールされます。32ビット用JMPをインストールしているときは、`jre-8u131-windows-i586.exe`が実行されます。64ビット用JMPをインストールしているときは、`jre-8u131-windows-x64.exe`が実行されます。

これらのファイルは、JMPとJMP Proのソフトウェアデポにあります。JMPからSASに接続するために、最もでもJava 7が必要です。Java 7がすでにコンピュータ上にある場合は、JMPのためにこのアップデートをインストールしなくてもかまいません。SASに接続しない、またはすでに必要なJREがインストールされているなどの理由で、これらのファイルが不要である場合は、インストールの前にソフトウェアデポから削除しても問題はありません。

Visual C++ 再頒布可能パッケージ

`vcredist_x64_2017.exe`

`vcredist_x86_2017.exe`

JMP 14で必要なこれらのファイルは、Microsoftから提供されているもので、Visual C++再頒布可能パッケージをインストールします。オペレーティングシステムが32ビットである場合、JMPインストーラはx86プログラムをインストールします。オペレーティングシステムが64ビットの場合は、x86プログラムとx64プログラムがインストールされます。

これらのファイルは、JMPとJMP Proのソフトウェアデポにあります。これらのファイルが確実に不要であるという場合は、インストール前にソフトウェアデポから削除しても問題はありません。該当するレベルのVisual C++ファイルがないと、JMPは動作しません。これらのファイルをデポから削除せず、JMPにインストールされることをお勧めします。

索引

年間ライセンス版Windowsバージョンのデプロイメントガイド

記号

.NETバージョン [16](#)

E

Extraフォルダのファイル [16](#)

F

FAQ [13](#)

J

Javaバージョン [17](#)

JMP.PER [5-6, 9](#)

JMPのアップグレード [13](#)

JMPの起動 [9](#)

JMPライセンスの更新 [11](#)

S

SIDファイル [5, 11-12](#)

イ

インストール [4](#)

サイレント [9](#)

準備 [6](#)

2つのバージョン [14](#)

インストール用ファイル

提供 [5](#)

場所 [7](#)

カ

カスタムファイルの追加 [7](#)

サ

サイレントインストール [9](#)

テ

データベースドライバ, ODBC [5](#)

テクニカルサポート [14](#)

ト

トライアル版 [14](#)

ヒ

品質 [14](#)

ラ

ライセンス

概要 [5](#)

期限切れ [6, 14](#)

更新 [11](#)